

「自然の叡智賞」(第2回審査結果)

○カテゴリーA(4モジュール以上)

金賞 ドイツ館
銀賞 フランス館
銅賞 アメリカ館

○カテゴリーB(1.5～3モジュール)

金賞 メキシコ館
銀賞 オーストラリア館
銅賞 マレーシア館

○カテゴリーC(1モジュール以下)

金賞 オランダ館
銀賞 南アフリカ館
銅賞 インドネシア館

○カテゴリーD(共同館)

金賞 アンデス共同館
銀賞 マダガスカル共和国(アフリカ共同館)
銅賞 ケニア共和国(アフリカ共同館)

以上

審査委員会のコメント

「自然の叡智賞」 審査基準

1. 博覧会テーマとの関連
愛・地球博のテーマである「自然の叡智」にそった内容で、各パビリオンが展示を行ったかを評価した。
2. テーマの展開
各パビリオンが博覧会のテーマである「自然の叡智」の意味するところをくみとり、各パビリオンが発信するメッセージに展開できているかを評価した。
3. テーマ展開の革新性
各パビリオンの展示内容と展示方法が高い革新性を持っているかを評価し、その革新性のあるビジョンが将来につなげていけることなのかを重視した。
4. メッセージの明確さ・わかりやすさ
各パビリオンのメッセージの内容が来場者にわかりやすいかを評価し、なぜこのメッセージを博覧会で発信しているかという各パビリオンの意図が明確に伝わっていることを重視した。
5. 一般への教育と博覧会価値の向上への貢献
各パビリオンがいかに関一般市民の教育に貢献したかだけでなく、愛・地球博および過去そして将来の博覧会においても重要となる価値観—たとえば、文化の多様性、恒久的平和と相互理解の確立、国際交流の強化、自然保護、生物の多様性の保護などが、発信できているかどうかを評価した。

「自然の叡智賞」 受賞理由

カテゴリー A

金賞 ドイツ館

地球の直面している問題についてのすぐれた展示と、自然から学んだ新技術を具体的に示すことで、来場者にわかりやすく地球環境問題の解決方法を示した点が高く評価できる。

銀賞 フランス館

地球の直面する問題を深く掘り下げ、地球レベルでの解決、取り組みの必要性をわかりやすく説明している点が高く評価できる。

銅賞 アメリカ館

自然の神秘を解明し、グローバル経済を確立する、人間の知恵と技術革新の可能性を示した点が高く評価できる。

カテゴリーB

金賞 メキシコ館

多様な環境に焦点をあて、文学や芸術が人間の行動の源になることを示した点が高く評価できる。

銀賞 オーストラリア館

先住民の伝統文化と現代の環境問題を紹介し、将来、革新的な対策をとっていかねばならないことを示した点が高く評価できる。

銅賞 マレーシア

バイオテクノロジーを通して環境問題に対して革新的な解決法を提案している点が高く評価できる。

カテゴリーC

金賞 オランダ館

発展を続けたいという人類の希望と貴重な限りある水資源との間で、バランスをとっていかねばならないということを印象的に表現した点が高く評価できる。

銀賞 南アフリカ館

貧困と戦争が地球環境への脅威であるということを認識し、エコツーリズムによる持続可能な経済をつくりあげる努力を紹介した点が高く評価できる。

銅賞 インドネシア

自然の力に対する畏敬の念と、多様な文化の間の協調を築くことの必要性を示した点が高く評価できる。

カテゴリーD

金賞 アンデス共同館

自然と調和して生きていくために、種の多様性の維持と、伝統的な文明の知恵に学ぶことの重要性をわかりやすく紹介したことが高く評価できる。

銀賞 マダガスカル:アフリカ共同館

深刻な環境破壊の現状を展示し、今は失われてしまった自然と調和して生きるかつての伝統を再評価している点が高く評価できる。

銅賞 ケニア:アフリカ共同館

エコツーリズムの推進による野生生物の保護を行うことが、環境保護と経済発展を同時に可能にすることを示した点が高く評価できる。

「自然の叡智賞」実施概要

1. 名称

「自然の叡智賞」

2. 対象

公式参加国が出展する69パビリオン(*)を対象とし、日本館や自治体、企業パビリオンは対象としません。

*参加国は 120 カ国であるが、アフリカ、北欧、コーカサス、アンデス、中米、中央アジア、南太平洋の7つの共同パビリオンを設置しているため。

3. 審査委員会

褒章に関する第14号特別規則に基づき、審査委員には下記の9名に就任いただきました。

呉建民氏 博覧会国際事務局(BIE)議長

ビセンテ・ゴンサレス・ロセルタレス氏 BIE事務局長

オーレ・フィリップソン氏 国際諮問委員会委員長

近藤次郎氏 東京大学名誉教授、愛・地球賞審査委員長

彦坂 裕 氏 建築家・環境デザイナー、日本館クリエイティブ統括ディレクター

ラシード・スリミ氏 ONA基金会長、ONAグループ総務・企業関連ディレクター、世界銀行顧問

マーティン・ロス氏 プロシア文化遺産財団顧問委員、ドレスデン大学文化政策・文化マネジメント学部教授

アルベルト・レンツ氏 建築家・芸術家、前メキシコ大統領顧問

ロバート・W・ライデル氏 モンタナ州立大学歴史学・哲学科教授

なお、審査委員会(第1回)での協議により、特に審査委員長は定めないこととしました。また、スポークス・パーソンとして、ロバート・W・ライデル氏を選任し、賞の発表等を行うこととしました。

4. 賞の詳細

a) 賞のカテゴリー

出展モジュール数に応じて以下のカテゴリーごとに賞が授与されます。

①カテゴリーA(4モジュール以上) 14パビリオン

インド館、韓国館、中国館(以上、グローバル・コモン1)、アメリカ館、カナダ館(同コモン2)、イタリア館、ス

ペイン館、ドイツ館、フランス館(同コモン3)、イギリス館、スイス館、ベルギー館、北欧共同館、ロシア館(同コモン4)

②カテゴリーB(1.5～3モジュール) 15パビリオン

カタール館、サウジアラビア館、スリランカ館(同コモン1)、国連館、メキシコ館(同コモン2)、クロアチア館、ギリシャ館、トルコ館(同コモン3)、オーストリア館、チェコ館、ポーランド館(同コモン4)、オーストラリア館、シンガポール館、タイ館、マレーシア館(同コモン6)

③カテゴリーC(1モジュール以下) 34パビリオン

イエメン館、イラン館、ネパール館、パキスタン館、バングラデシュ館、ブータン館、モンゴル館(同コモン1)、アルゼンチン館、OECD館、国際赤十字・赤新月館、国際熱帯木材機関館、キューバ館、ドミニカ館(同コモン2)、チュニジア館、ブルガリア館、ボスニア・ヘルツェゴビナ館、モロッコ館、ヨルダン館、リビア館(同コモン3)、アイルランド館、ウクライナ館、オランダ館、ポルトガル館、リトアニア館、ルーマニア館(同コモン4)、エジプト館、南アフリカ館(同コモン5)、インドネシア館、カンボジア館、ニュージーランド館、フィリピン館、ブルネイ・ダルサラーム館、ベトナム館、ラオス館(同コモン6)

④カテゴリーD(共同館) 6パビリオン

中央アジア共同館(同コモン1)、アンデス共同館、中米共同館(同コモン2)、コーカサス共同館(同コモン4)、アフリカ共同館(同コモン5)、南太平洋共同館(同コモン6)

b) 賞の種類

上記カテゴリー別に、もっとも優れたものから金賞、銀賞、銅賞の3つの賞を、審査委員会が選出します。ただし表彰に値する対象がない場合は、この限りではありません。

c) 評価の観点

賞は下記の観点から会期中2回、審査を行い、その都度、受賞者が発表されます。

① 第1回褒賞

本博覧会のテーマである「自然の叡智」の具現化に向けた公式参加パビリオンの外観、内装および展示内容などが評価されます。

② 第2回褒章

「自然の叡智」のテーマに基づき、自然保護、生物多様性、文化多様性、相互理解、国際交流の促進など、今日のグローバルな問題を解決するため、世界に向けて発信している公式参加者のメッセージが評価されます。

d) 今後のスケジュール

表彰式は9月24日(土)のBIEデーに行います。